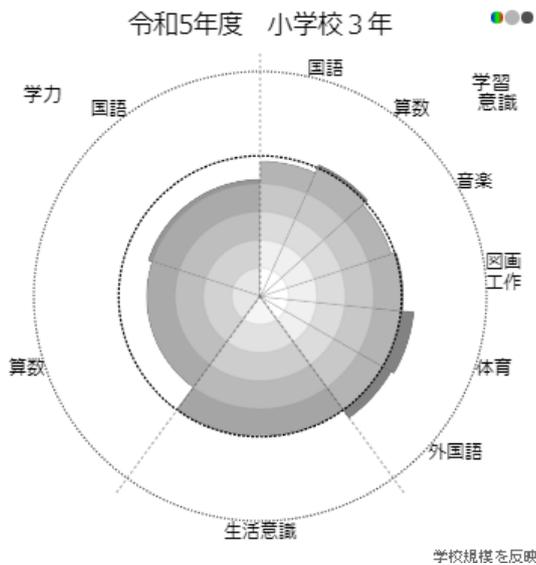


【3年生】



【国語】

既習の漢字は概ね身につけています。しかし、全ての設問において市平均より下回っていました。「出来事の順序を捉える」設問は、文学的・説明的な文章の両方で特に市平均より低いため、課題があると分かりました。

【算数】

空間図形の「ものの形を機能的な特徴で捉える」設問と統計の「表を与えられた条件と関連付けて解釈する」設問は、市平均よりも正答率が上回っていました。上記以外の設問は、市平均よりも低く、特に「念頭操作を基に、示された大きさを分数で表す」設問の正答率が低く、10%を切っていました。

【生活・学習意識】

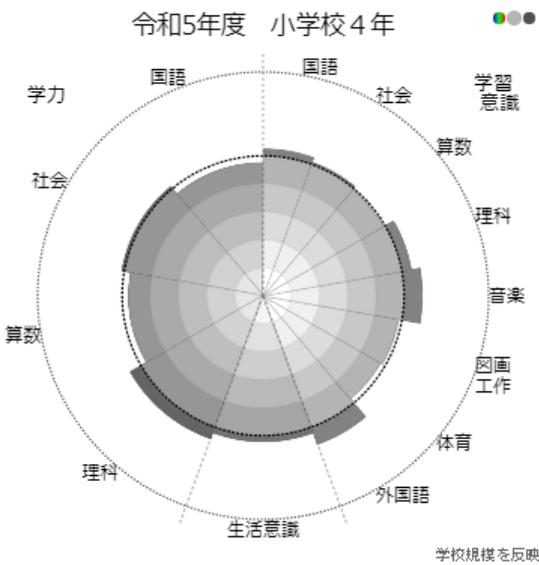
読書を30分以上行っていたり、1日に2時間以上学習したりしている割合は、市平均よりも高いことが分かりました。また、学校図書館に行くことが好きな割合や、体を動かすことも好きな割合も、市平均よりも高い結果が出ました。学習意識も、ほとんどの教科で市平均よりも高いことも分かりました。一方で、1日に

3時間以上ゲームをする割合が市平均よりも高いことや、自己肯定感が低いこと、クラスの友達と話し合っている割合は高いが、分かるように伝えようとしている意識は低いことも分かりました。

【今後の指導について】

基本的な知識や技能を確実に身に付けられるように、日々、既習内容の復習に取り組み、学習の定着を図ったり、子どもたちが自信をもてるように肯定的な声かけをしたりしていきます。

【4年生】



【国語】

7つの設問で、市平均を上回っており、特に、「登場人物の行動の理由を想像する」設問では、正答率が95%で、市平均よりも10%近く上回っていました。「登場人物の行動の理由を想像する」「第3学年に配当されている漢字を使う」設問でも、10%上回っていました。一方で、「様子を表す語句を使う」設問が約13%、「登場人物の境遇を捉える」設問は約15%、「『始め—中—終わり』の構成を捉える」設問も23.5%、市平均を下回っていました。

【社会】

どの設問でも正答率が市平均よりやや高い、もしくはやや低くなっていました。「消費者の多様な願いに着目し、商品販売が工夫して行われていることを理解する」「社会的事象に着目し、関係機関や地域の人々の諸活動を理解する」設問では、正答率が約97%で、市平均よりも10%近く上回っていました。一方で、「農家の様子に着目し、生産に携わっている人々の仕事の様子を理解する」設問では、正答率は50%以上あるものの、市平均より10%近く低

いことが分かりました。

【算数】

4つの設問で、正答率が90%を上回っていました。その4つの設問は市平均も高いのですが、本校の児童の正答率は、特に「基本図形を判別する」設問では97%、「割合を表す分数で示された量を捉える」設問では100%でした。一方で「式が意味する場面を捉える」「立体図形の構成要素を適切に測定する」設問では、市平均も約40%と低いのですが、本校は、さらに10%下回っていました。

【理科】

ほとんどの設問で、正答率が市平均を上回っていました。その中の6つの設問では、正答率が95%を上回り、特に、「物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している」設問では、市平均より20%近く上回っていました。

【生活・学習意識】

概ね市平均を上回っていました。特に、自己意識、共感性が高い傾向がありました。一方で、好奇心については、市平均を下回っていました。

【今後の指導について】

3年生の理科、社会は日常の事象に結び付く内容が多いため、生活経験を基に考察することができると考えられます。一方、算数では、知識・技能よりも思考・判断・表現する力に課題があることが分かりました。今後はどの教科も、しっかりと基礎・基本の定着を図るとともに、更に、学年が上がるにつれて、抽象的思考が求められるので、一層思考力を養う指導をしていきます。

【5年生】

【国語】

3・4年生の漢字や慣用句を使う設問や、文章を読み、叙述を基に登場人物の境遇や役割をとらえる設問については、市平均と比べてほぼ同じかやや低い正答率でした。一方で、「書かれている文章の表現をそのまま生かして、要約する」設問が市平均より17%ほど低く、課題があることが分かりました。

【社会】

地形や土地利用の資料を読み取り、市の特徴をとらえることができていました。一方で、時間的推移を表す資料を読み取って、社会的事象について自分なりに考えることに課題があることが分かりました。

【算数】

除法の計算や立体図形の構成要素など、基本的な知識や技能は身につけているようです。一方で、除法について成り立つきまりを基に、計算結果を判断したり、場面からきまりを見つけたりする

など、知識を生かして自分で考えることは、市平均よりも15%以上低く、課題があることが分かりました。

【理科】

自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見出すことができていました。一方で、正しい方法で実験したり、学習したことを日常生活に生かしたりすることに課題があることが分かりました。

【生活・学習意識】

「将来の夢や目標をもっているか」や「学校は安心できる場所か」などは市平均より上回っている傾向がありました。一方で、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えている」という質問に対しては市平均を下回っていました。また、「学習したことを普段の生活の中で生かして使おうと思うか」や「自分の考えを相手に伝えようとしているか」などは市平均よりも上回り、「学習を通して見つけた地域や社会の課題を自分たちで解決できると思うか」は市平均よりも下回っていました。

【今後の指導について】

基本的な知識や技能を確実に身に付けるため、日々、課題に取り組むことで力をつけられるようにしていきます。また、読み取った資料や文章を基に、自分の考えをもち、発表できる場を設け、考えを発信できる力を育てていくようにします。

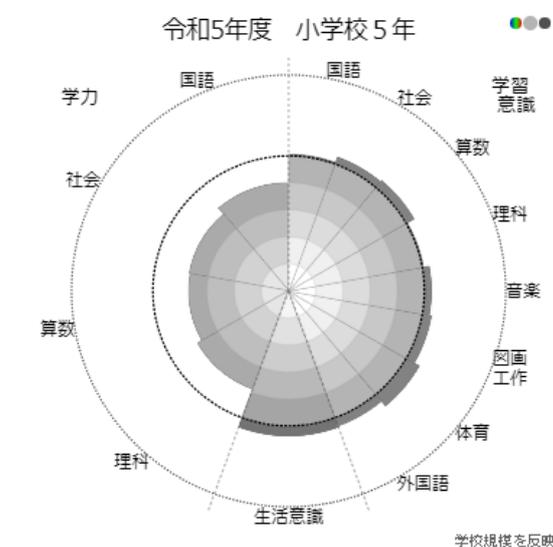
【6年生】

【国語】

情報活用において、「ウェブページを読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめる」設問についての正答率が市平均を約14%上回っていました。一方で、文学的な文章において、「物語の全体像を具体的に想像すること」については、正答率が最も低く6.3%、「登場人物の性格を具体的に想像する」設問も9.4%、「事実と意見との関係を捉える」設問では12.5%と、低いことが分かりました。

【社会】

知識・技能については半分以上の問題において市平均を上回る正答率で、特に正答率が高い設問は、「都道府県の位置に着目し、地図と統計資料から、地形や気候などの自然条件を読み取り、理解する」で、87.5%でした。一方で、思考・判断・表現に関する設問では、全体的に市平均を下回っており、特に「これからのまちづくりに着目し、津波が発生した時のことを考え、町営団地と消防署を高台に移転させようとしていることについて、資料を基



【理科】

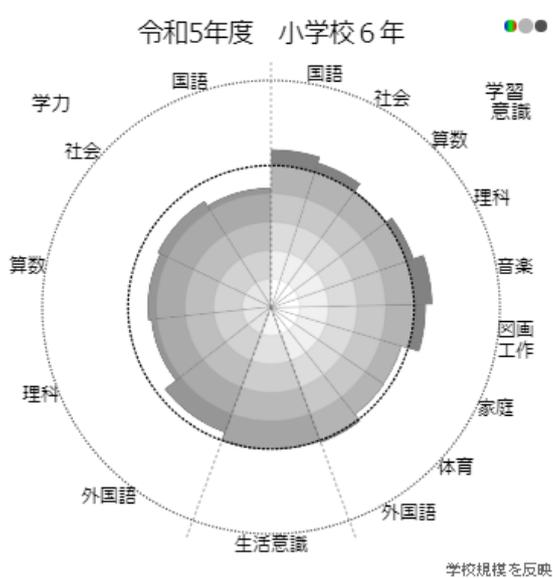
自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見出すことができていました。一方で、正しい方法で実験したり、学習したことを日常生活に生かしたりすることに課題があることが分かりました。

【生活・学習意識】

「将来の夢や目標をもっているか」や「学校は安心できる場所か」などは市平均より上回っている傾向がありました。一方で、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えている」という質問に対しては市平均を下回っていました。また、「学習したことを普段の生活の中で生かして使おうと思うか」や「自分の考えを相手に伝えようとしているか」などは市平均よりも上回り、「学習を通して見つけた地域や社会の課題を自分たちで解決できると思うか」は市平均よりも下回っていました。

【今後の指導について】

基本的な知識や技能を確実に身に付けるため、日々、課題に取り組むことで力をつけられるようにしていきます。また、読み取った資料や文章を基に、自分の考えをもち、発表できる場を設け、考えを発信できる力を育てていくようにします。



に考える」設問では正答率が21.9%と、市平均よりも約16%下回っていました。

【算数】

「目的に合う表を判断する」、「基本図形の求積に必要な要素を正しく捉える」設問では、市平均よりも約7%、正答率が上回っていました。一方で、「除法について成り立つ性質を基に、計算の結果を判断する」「異種の二つの量を割合として捉えられる数量を日常場面に活用する」設問では、正答率が18.8%と、市平均よりも大きく下回っていました。

【理科】

「振り子が1往復する時間について、重りの重さと関係があるのか検証するための計画を立てることができる」設問では、ほぼ市平均と同等、「学習した知識を日常生活に活用することができる（粒子）」「実験結果から考察することができる（粒子）」設問では、やや市平均を上回っていました。一方で、「水に溶けた食塩の様子について、予想を検証するための計画を立てることができる」設問では正答率が6.3%で、市平均より約13%下回っていました。

【英語】

全体的に、正答率が高く、「聞くこと」における知識・技能は90%以上の正答率でした。一方で、「小文字を正しく書いている」設問では、市平均をやや下回り、59.4%の正答率でした。また、「ゆっくりはっきりと話された会話を聞いて、必要な情報を適切に捉えている」設問においては、市平均よりも約14%低いことが分かりました。

【生活・学習意識】

あいさつを自分からしていたり、学校や社会のきまりを守ることは大切だと思っていたりする児童が多いことが分かりました。また、ほとんどの児童が言葉のもつよさを感じながら国語の学習をしていることが分かりました。一方で、一日の学習時間が市平均よりも大きく下回り、携帯電話やスマートフォン等を使っている時間は市平均よりも上回っていることも分かりました。

【今後の指導について】

生活も学習も、基礎・基本を大切にしながら指導をしていく必要があります。体験を通して理解を促し、理解したことを言葉や図で表すことを繰り返していくことで、学びを積み重ねていけるようにします。

全体的に、昨年度同様、市平均と比べると、学習意識は高いものの、学力は低い傾向があることが分かりました。

しかし、3年生以上の「前学年から学力を伸ばした児童の割合（国語・算数のみデータあり）」を見ると、3年生の算数、4年生の国語・算数、5年生の国語において、市平均よりも高いことも分かりました。

学習面では、どの学年でも、語彙や漢字の定着、基礎・基本の定着や、思考力について課題がありました。文章を読むこと・書くことに慣れていくことで、文章を理解する基礎力を身に付けていくことが必要だと考えています。同時に、考える習慣をつけるとともに、その考えを友達と交流し、比較することを通して、さらに自分の考えを深め、タブレット端末を使ってまとめたり伝え合ったりして表現するような機会を増やすように努めます。

生活面では、全体として規範意識は高く、友達や周りの人を大切にしていることが分かりました。また、インターネットを使う場合のリテラシーについても高い意識をもっていることも分かりました。普段からタブレット端末を活用していることや、情報委員会を中心とした、児童がタブレット端末の使い方を考えていく情報リテラシー教育の取組、防犯教室などを取り入れた情報モラル指導の成果が表れていました。

しかし、自分に自信がもてなかったり、分からないことやうまくいかないことに出あったときに解決しようとしたりする児童は多くないことが分かりました。また、どの学年でも、ゲームの利用時間が、1時間以上は50%以上、その中でも3時間以上は20%近くと、ゲームに費やす時間がとても多い傾向があることが分かりました。生活リズムの面でも、健康面でも、適切な時間の使い方ができるように、子どもと大人で一緒に考えていく必要があります。

これからも、児童の興味関心を引き出すような授業・活動を行うとともに、様々な体験や友達とかかわることを通して、視野を広げ、一人ひとりが、自分自身や友達を理解し、向上心を持ち、問題解決をしながら学校生活を送れるように、ご家庭と協力しながら、発達段階に応じて指導・支援していきます。